

秘 臨時特務機関

始まりから終わりまでの全てが歴史の裏側に葬り去られ、今なお隠匿され続けている臨時特務機関。先の大戦の最中に「それ」は確かに存在したのだ——私はそう確信している。しかし、膨大な資料の山を当たっても、関係者だったであろう者に話を聞いても「それ」の存在は茫漠としたままであった。

まるで砂漠をさまよいながら、一粒の砂粒を探し求めるかのような気分だった。そんな私の執念が叶ったか。私は「それ」に繋がる手がかりを発見したのだ！その内容のほとんどは解読不能だったが、かろうじて読めた文言がある。最後の最後、結びの言葉のみ。

これから見聞きすることは全て、くれぐれも他言無用だ。
ようこそ。我々は貴君の活躍に大いに期待している。

※このバックドロップは非常に繊細な問題を扱うことができる。プレイヤー全員で、遊ぶ前に触れたり扱ってほしくない事象について十分に話し合わなければならない。各プレイヤーは誰かの描写や発言に少しでも不快感を感じたならば、いつでも即座にゲームそのものを中断するか、続行が難しい場合はゲームを中止する権利を有している。

〔アспект生成質問〕

- **戦争**。現在の戦況を報告せよ。
- **任務**。現在の情勢において、機関が優先順位第一で対処しなければならない問題を分析せよ。
- [自由アспект] だ。自由に述べたまえ。

〔共同体への質問〕

- 当方の地勢・地理的状况を述べよ。それは我々にとってどのような恩恵、または害をもたらすだろうか。
- 我々はどうやって、我々自身とこの機関を隠匿し続けているのか。
- この機関の設立者はどんな人物で、どんな目的を持ってこの機関を設立したのか。
- 戦場とはいえ、娯楽も存在するものだ。この状況下で我々が楽しみにしていることは何か。
- ひとつの機関として、我々が結束を強めるために定期的に行うことは何か。

名前

出身が同じ、または親類縁者などなら似たような名前になることもあるだろう。しかし、縁もゆかりもない者たちの集団ならば、その限りではない。名前すら秘匿しなければならないならば、コードネームを名乗るのもよいだろう。

〔時代の移行〕

〔時代〕2へ移るにあたって〔展開〕を(黒い左欄か、赤い右欄か)選ぶ。以降は、選んだ方の〔展開〕が続く。

〔時代〕2へと移る。〔アイソレーション〕の終わりを予感させる出来事。それはあらゆる会話の中に潜んでおり、無視などできない。

吉報！我々は無事初回の作戦を遂行し、周囲の期待通り以上の戦果を上げることができた。当方上層部の覚えめでたく、我々の待遇も一段と良くなると聞いた。当初の不安感は払しょくされ、意気軒高たる様相だ。もっと効率よく戦果をあげるにはどうればよいのだろうか？

とはいえ、全く犠牲が伴わなかったわけではないが——計画全体から見れば些細なことだ。

〔時代〕3へと移る。予期されたことが起きてしまう。〔アイソレーション〕の終わりは近い。この定めからは逃れられない。

大戦果！我々は敵を出し抜き、強大な戦力を手にした。これにより戦況は当方に形勢が傾くことだろう。計画は順風満帆そのものだ。ただ、死ぬ確率は相当減ったとはいえ、ここが戦場だということは確かだ。ここに今立っているものと、そうでないものの違いは何だったのだろうか？

〔遣されゆくもの〕へと移る。最後の瞬間、またはその結果。

万歳！戦争は当方の勝利で終わった。今日で機関は解散、我々の任務も解かれる。我々の活動は、輝かしい歴史の影中に、永遠に秘匿されることになるだろう。我々のこれからの人生は栄光が約束される——墓場まで秘密を持っていくならば、せいぜい口を滑らせないよう気をつけなければ。

当方は劣勢だ——当初より予想はされていたことだが、それよりも損耗が激しい状態が続いている。焦りがじりじりと周囲に蔓延し、それに比例するかのよう、我々に賭ける期待は大きくなっている。少しでもこの状況を好転させるために、我々がやらねばならぬことは何だ？

次々とメンバーとの定時連絡が途絶えている。人員を始め、ありとあらゆる物資が足りていない。厭戦気分が蔓延し、士気は確実に落ちている。救援が来る当てもない。はっきり言って絶望的な状況だ。こんな青息吐息の状態でも、どうすれば戦い続けられるだろうか？

戦争は当方の敗北で終わるだろう。指揮系統はすでに崩壊した。我々の存在、やってきたことはもしかしたら敵方に嗅ぎつけられているかもしれない。必ず証拠は隠滅しなければならない。生き延びたとしても、これを表沙汰にしては我々の命はないだろう。さて、各々の身の振り方を考えようか。

ちかま
本文

鮎方高明
編集

ちかま
イラスト

取材協力

このバックドロップは、ロールプレイング・ゲーム『ダイアレクト』（Thorny Games）のアクセサリです。
『ダイアレクト』について興味がある方は、harrowhill.rdy.jpをご参照ください。

遊ぶにあたって、このバックドロップは自由にコピーしていただいて構いません。またクリエイティブ・コモンズ「表示-非営利-継承」ライセンス範囲内で自由にご利用いただけます。

<https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/deed.ja>

This playset is copyright 2021 by chikama, twitter id:chiiikama11. Dialect is copyright 2017 by Thorny Games, LLC. All rights are reserved. Japanese translation published by arrangement with Thorny Games Publication. © 2020 by Harrow Hill.

秘 臨時特務機関

極秘

これから見聞きすることは全て、くれぐれも他言無用だ。
ようこそ。我々は貴君の活躍に大いに期待している。